

### 民俗－3 ノコ



宮崎県は総面積の約4分の3が山地です。標高1,000m以上にはブナ・ミズナラなどの夏緑広葉樹林かりよくこうようじゅりんが、1,000m以下にはシイ・カシを中心とする照葉樹林しょうようじゅりんがひろがっており、昔から用材として伐出しが行われてきました。その伐木ばつぼくの際に使われた道具が"ノコ"です。

ノコは大きく分けて2種類あります。木材には縦方向たてびに繊維せんいがありますが、この繊維に沿って切断する"縦挽き用"と、繊維に直交して切断する"横挽き用"とがあります。

コビキノコと呼ばれるものは縦挽き用、ノコやヒッキリノコと呼ばれるものは横挽き用のものです。ノコは木材の大きさや用途に応じて使い分けていました。明治時代以降、縦挽きと横挽きを兼ねた両刃ノコも普及し、"ノコ"といってもその種類は豊富です。

ノコは、厳しい地理的条件の中で生活を営んできた人々の、知恵と努力が伺える道具のひとつと言えるでしょう。